

会 議 録

会議名	平成22年度第1回 八王子市市史編さん審議会	
日 時	平成22年12月20日(月)午後3時00分～午後5時05分	
場 所	八王子市役所本庁舎 801 会議室	
出席者氏名	委員	松尾正人会長、相原悦夫副会長、池上裕子委員、内田純功委員、 長澤美恵子委員、光石知恵子委員、村松英二委員、
	理事者	田中正美副市長
	説明者	佐藤広市史編さん室長、新井雅人市史編さん室主幹
	事務局	(説明者のほか)長谷部晃一市史編さん室主査、 渡部恵一市史編さん室主事、佐藤千枝市史編さん専門員、 松尾あずさ市史編さん専門員、柳沢誠市史編さん専門員、
欠席者氏名	橋山国雄委員、前田成東委員、渡辺忠胤委員	
議 題	1. 諮問 2. 市史編さん事業の経過と現状について 3. その他	
公開・非公開 の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	1. 市史編さん審議会委員名簿 2. 資料1 市史編さん事業の経過について 3. 資料2 市史編集委員会、専門部会の活動状況について	

会議の内容

1. 開会

【松尾会長】これより、平成 22 年度第 1 回八王子市市史編さん審議会を開会する。橋山委員、前田委員、渡辺委員から欠席の連絡があるが、過半数の出席があるので審議会は成立している。今回の会議録の署名は、長澤委員にお願いする。

会議に先立ち、事務局職員に異動があったので報告願いたい。

(事務局職員の異動について報告)

2. 諮問

【松尾会長】次第に沿って進める。次第の 2、諮問を行う。

【新井主幹】本日、市長が公務により出席できないため、田中副市長から会長に諮問文をお渡しする。

(諮問文の手交 - 今後の八王子市史編さん事業推進の方策について)

3. 市史編さん事業の経過と現状について

【松尾会長】次に市史編さん事業の経過と現状について、事務局から報告願いたい。

(配付資料 1、2 に従い、事業の経過と現状について報告)

【松尾会長】事務局から、前回の審議会以降の事業の経過と現状について報告があった。まず、配付資料 1 に関して何か意見、質問はあるか。

【長澤委員】資料 1 に、平成 23 年 3 月に『八王子市史研究』創刊号、24 年 3 月には第 2 号の発行とあるが、これはどのような内容のものになるのか。

【新井主幹】市史研究は、現在進めている調査・研究の成果を本編、資料編の刊行前にいち早く市民の方々にお伝えするために発行するものである。内容としては、いわゆる論文集、大学紀要のようなイメージの年刊誌である。

【長澤委員】大学紀要のようなものといふとかなり専門的な冊子のイメージであるが、一般の市民にとって分かりやすい内容ではないということか。

【新井主幹】執筆するのは専門の研究者であるが、一般の方々にも十分にご理解いただけるような内容のものも含まれていると考えている。

【長澤委員】何部くらい発行するのか。また、販売はする予定か。

【新井主幹】正式には決まっていないが、1,500 部から 2,000 部くらいの発行を予定している。また、図書館や関係機関には無償で配付するが、一般には有償で販売したいと考えて

いる。販売にあたっては市の広報でお知らせすると同時に、新聞社などにも情報を提供して記事として掲載されるよう努力したい。

【佐藤室長】市史研究は、1年間の研究成果を示すものであるので、学術誌と考えていただいた方がいい。確かに市民の誰もが手に取って読んでいただけないというものではないが、歴史や自然に関心のある市民の方であれば、関心を持って読んでいただけるだろう。内容的にも、八王子市民だけを対象にしたものではなく、全国の歴史研究者などへの情報提供や情報交換も目的としているものである。

【長澤委員】専門的なものの重要性は理解できるが、市民の代表として考えると、研究成果を多くの市民に提供できるような内容のものであってほしい。すでに刊行準備も進んでおり、今から変更するのも難しいだろうが、専門的な研究成果をまとめたものとなると、大学の研究者や専門の大学生くらいにしか情報が提供されないということにはならないか。そうすると何のための市史なのかと考えざるを得ない。

【松尾会長】論文などは専門的なレベルの高いものになってしまうが、中には研究ノートや資料紹介など、幅広い方々に読んでいただける内容のものもあるだろう。やはり調査・研究の過程で新しい発見があった場合に、市史に記述する前に広く全国の研究者に知っていただき、議論していただくことで、その発見がどれほどの価値があって、市史においてどの程度記述ができるのか、アドバイスなどもいただくことができる。その意味では市史研究は市史の基礎になるものであると思う。

一般向けのものでは、市史編さん室だよりの「稲荷山通信」に「歴史の窓」というコーナーもあり、これは八王子の身近な話として興味深く読んでいただけたらと思う。今回の市史編さん事業では、稲荷山通信のような市民に身近なものもあれば、市史研究のようにある程度専門的なものもあるというように、複線的に事業を進めていると考えるとご理解いただけるのではないか。

【村松委員】市史研究創刊号の内容の電子データ化の予定はあるのか。発行部数は1,500部から2,000部ということだが、それだけでは多くの市民に配布することはできない。また、電子データで配布することにより、世界中からのアクセスが可能になる。そのことで市史研究自体の価値が上がると思う。

【新井主幹】市史研究の編集段階でもそのような議論があった。しかし、有償で頒布している冊子のデータを、最初からインターネット等で公開していいのかという意見もあり、今回は当面の間は印刷したもののみ頒布とするが、内容がわかるように目次部分のみを市のホームページ等で、日本語と英語の2言語で公開することを考えている。数年後には、全文を公開していくという流れにもなるだろうと思う。

【相原委員】資料では、今後刊行する予定の資料編や資料集なども提示されており、今まで霧の中で先が見えないような状態だったのが、少し具体化してきたかなと思っている。基本構想で決められた刊行計画や刊行方針などと照らして、事務局としては事業は予定どおり進んでいると考えているか。

【新井主幹】基本構想では、平成 28 年度までに本編、資料編を刊行することとしている。編集委員会でも、まだそのための調査・研究が始まったばかりであるので、当面はこの計画に従って刊行準備を進めていきたいということである。その意味では、作業は予定どおり進んでいると考えている。ただし、調査・研究があつてこそその市史の刊行であるので、もう少し調査・研究が進んでいけば、予定どおりに市史の刊行が進むかどうかははっきりしてくると思う。

また、基本構想では平成 28 年度までの本編、資料編の刊行計画を定めているが、それとは別に付帯事業として資料集や調査報告書などを刊行することとしている。これらについては、各専門部会でようやく具体的な話が出てきた段階であり、詳細な刊行計画を作る段階には至っていない。これらについても今後の調査・研究の進捗状況を見ながら刊行の考え方を整理する必要があると思っている。

【佐藤室長】基本構想の枠の中の仕事としては順調だが、実際に調査を進めていくと、八王子の場合、質的にも量的にも資料が膨大だと感じている。すべての資料を扱うことは困難なので、編集委員会の委員の方々には、基本構想の考え方の範囲内で動いていただいているのが現実である。捕捉した資料は今回の市史には使えないかもしれないが、将来的に使える形で残していきたいというのが事務局の考えである。

八王子市としての市史編さん事業は 50 年ぶりということであり、その間は市民の方々が市の歴史の調査に尽力してくれた。その成果を生かすために、まずは先行研究をきちんと把握しないといけないと思う。現在連携している古文書の関係団体の方々などは、この事業が始まる前に、郷土資料館の業務の一環として市内の資料所在調査をしていただいた。そういう先行的な仕事があつて、今の事業が展開していると思っている。また八王子には地域の研究者の方々も多く、市史編さん事業に協力いただくため、市史編さん研究協力員という形で 15 名程度の方々に協力をお願いしているところである。

【松尾会長】全体としては順調だが、課題も多いということだろうか。次に資料 2 について何か質問、意見はあるか。

【佐藤室長】まず、資料 2 にある専門部会の設置に関して基本的な考え方を説明したい。基本構想に則り 6 専門部会を設置しているが、部会委員、専門調査員等については原則部会長に選んでいただくなど、事務局としては部会長の考え方を尊重して部会運営を行っていただいていると思っている。学問分野としての個性や部会長それぞれの個性もあるが、積極的に会議や調査を行っていただいていると感じている。

【長澤委員】21 年度の活動状況を見ると、近世部会は 209 回の個別調査、研究を行っているが、具体的にはどのようなことをしているのか。

【新井主幹】近世部会の場合、調査・研究の中心は古文書の整理である。江戸時代の古文書は膨大にあるので、実際に古文書を所蔵しているお宅に伺ったり、これまでに他自治体で調査された古文書の中に八王子に関する記述がないかどうかなどの確認を行っている。

【長澤委員】古文書をマイクロフィルムにする準備なども行っているのか。

【新井主幹】そのとおりである。

【松尾会長】古文書の所在を確認して借用に行く、借用した古文書のどれをマイクロフィルム化するか選別するという作業があるだろう。

【長澤委員】説明を聞くとその範囲では理解できるが、実際の作業を拝見する機会があればもっと理解できると思う。ぜひそういう機会を作っていただけるといいと思う。

【光石委員】近世部会の作業は、古文書という資料を扱いながら歴史を組み立てていく作業である。自分で関わってみないと理解できないことも多い。一度、市史編さん室に来ていただき、マイクロフィルム化の作業をご覧いただければと思う。

今回、国の緊急雇用の予算がついて、八王子の古文書のかなりの部分が救われることになる。本を刊行するだけでなく、今回の事業によって市内に残された資料を救うことができるということを市民の方々にもご理解いただきたい。

【村松委員】最近、貴重な原資料が散逸している現状を目の当たりにすることが多い。地元にとっての大切な資料を保全するという意味でも市史編さん事業に期待したい。

【佐藤室長】最近も八王子関係のまとまった量の古文書が市場に売りに出されたことがあった。市史編さん室でも古書目録を丹念に見るなどして、資料の保存に努めている。旧市街地の資料もすべてが焼けてしまったわけではないので、できるだけ丹念に調査して貴重な資料の保存に努めたい。

【松尾会長】世代が変わったりお宅を建て替えたりする際には、どうしても資料の散逸という問題が生ずる。ただ、目録を作成しておく、所蔵者も大事なものだという理解を持って散逸が防げるようだ。どこの自治体でも文書館などが十分に整備されていないので、自治体で保存しきれない古文書をお宅で預かってもらうことが多いが、そうすると資料の散逸につながりかねない。八王子の市史編さん基本構想でも将来的に文書館をつくる内容があるが、これも資料の保存が重要であること、本の出版と資料の保存とがセットになっていることを示していると思う。

先ほど市長から諮問された、今後の市史編さん事業推進の方策についてであるが、基本的には市史編さん事業はうまくスタートできたが、八王子は面積も広く資料の数も多い、戦災などで資料が紛失している場合もある、また市史編さん事業が50年ぶりであるという課題も抱えている。現在は、市史編さん基本構想に基づき作業を進めていただいているが、これから本編、資料編の刊行が具体的に進んでくると、当初の予定どおりの刊行が難しい分野も出てくるかもしれない。スタートから2年たって、今回の諮問に至ったということである。

そこで、市史編さん審議会としての対応だが、この後、任期終了の6月を目途に結論を出していきたいと思う。先ほど出たように市史編さん室での作業を見に行ったり、編集委員会の動きも把握しておく必要があるだろう。この後、6月までに4回ほどの会議を開き審議していくことにしたい。

【相原委員】前回は4回の会議を経て答申を出した経過もある。今回もそのくらいが適切

だろうと思う。今のところ順調に進んでいるようなので、そのうえでこの先どういった改善が必要か、何点かに論点を絞って議論したらいいのではないか。

【松尾会長】編集委員会のメンバーからの話では、平成 28 年度の市制 100 周年をゴールに進めているが、予想していた資料がうまく利用できないなど、様々な意味で問題も生じているようだ。一方、近世資料集や民俗調査報告書など、前回の審議会の段階では具体的ななかったものがかなり具体化されてきているようなこともある。

基本構想には刊行計画が載っているが、これは平成 28 年度をゴールにする前提で考えたものであり、その結果、同じ年度に資料編と本編を出版したり、2 年続けて本を刊行するような計画になっている。仮にゴールは平成 28 年度を維持するにしても、その中での刊行年度を動かす必要が出てくるかもしれない。今回の答申を出すにあたって、まずは現在の刊行計画を何らかの形で見直すことが必要かどうかを議題の一つにしてもいいのではないか。

もう一つは長澤委員や村松委員からも意見が出ていた、当初は活字で印刷したものを頒布するが将来的には電子データで公開できるようにするとか、市民に開かれた市史編さん事業とするための様々な工夫を盛り込むことができないかと思う。それから、今後の調査・研究の進め方についてだが、資料の調査をどこまでやるのか、将来的な資料の保存をどう考えるのか、資料集や目録を発行するとなるとどこまでやるのか、こういったことも考える必要がある。この 3 点くらいは答申に盛り込まなくてはいけないと思うが。

【池上委員】刊行計画の見直しについては、ぜひ編集委員会の意向や専門部会の意向などを、今後の作業の見通しを踏まえて聞いていただきたいと思う。

【相原委員】6 つの専門部会が、それぞれ抱えている問題もあるだろう。具体的な話を聞くところから始める必要があるだろう。

【長澤委員】今回の市史編さん事業は、平成 28 年が市制 100 周年ということでそれまでに刊行するスケジュールを進めている。専門部会の部会長に平成 28 年度に向けてやっていけるのかどうか考えをまとめていただき、そのうえで検討が必要だろう。

【松尾会長】6 人の部会長全員に来ていただくわけにもいかないだろうから、まず次回の審議会に編集委員会の藤田覚委員長にお越しいただき、編集委員会としての現状や課題を話していただくことでどうか。

それでは、市長から諮問された「今後の市史編さん事業推進の方策について」に対しては、3 点を柱にして答申を作成する。まず最初に、編集委員会の動きを知るために藤田委員長に出席いただき話をしていただく。必要があれば質問もする。それをもとに議論を進めていくことにしたい。

【新井主幹】直近の編集委員会は 1 月 28 日に開催予定であるので、そこで審議会の意向について説明する。その後、次回の市史編さん審議会の開催ということにしたい。

4 . 閉会

【松尾会長】 それでは、これで本日の審議会を終了する。

平成 2 3 年 4 月 1 8 日

会議録署名人 長 澤 美恵子